

			<p>の生徒たちの成績の期待、生徒の性格についての評価（たとえば攻撃性など）、グループ作りなどについて、教師が情報を提供。</p> <p>親は、家族構成、家族の変化、職業、教育、子どもの学校生活や成績の期待、学校についての感想、成績のつけかたについて理解していることなどの情報を提供。</p>	<p>られた。成績は、同じように保管され、同じような標準テストと他の評価テストを同時期に受けた。</p>	
<p>1 1</p>	<p>Berkeley Social Contexts of Learning Study (ds1157) 1981-1991年 「パークレー、学習の社会的背景研究」 サンフランシスコベイエリア / 2-5年生 / 2回</p>	<p>2カ国語が用いられている教室における学習の社会的背景を調査する。 バイリンガルの生徒の学習に影響を与えるものは何なのか、生徒、学校の教師・スタッフ、親の認知を調査。</p>	<p>2回の調査。第1回が1981-1983、第2回が1989-1991。 第1回調査:調査員による教室観察調査。調査員は、SDRTのテストを再テストをコントロールした上でサマースクールと年間の学校での語学学習を評価。家族、教師、校長、生徒がインタビューされた。質問は、答える人の必要に応じて、英語、スペイン語または広東語で行われた。教室観察は、生徒の学習法と教師の教え方に焦点をあて、200時間の教室でのやりとりがビデオ録画され、全部で1600時間の教室観察が行われた。 第2回調査は、スペイン語を話す生徒の追跡調査。成績と管理記録が、生徒の学校での学びを分析するのに用いられた。生徒のうち77人が追跡調査された。2人のスペイン語を話す大学院生が、40人の参加者を知っている人をインタビューしたために、そのことがなければ第2波に参加しなかったであろう40人が加わった。</p>	<p>第1回調査ではサンフランシスコベイエリアの3つの学区からの8つの学校の2-5年生で、英語力が弱い男女の生徒265人を調査した。そのうち117人はメキシコからの移民の子どもたちで主にスペイン語を話す家庭に育っている。46名は中国からの移民の子どもたちで主に広東語を話す家庭に育っている。</p>	<p>男女265人（うちメキシコからの移民家族117人、中国からの移民家族46名、残り主にアフリカンアメリカン家族）</p>
<p>1 2</p>	<p>British Cohort Study (BCS70) http://www.esds.ac.uk/longitudinal/access/bcs70/ 「イギリス1970年生まれの調査」</p>	<p>出生時の健康に関する質問、5歳で身体的教育面での成長を追加、10歳16歳で社会性の発達を追加成長、26歳で、経済的発達を追加。 1970年4月5-11日に生まれたおよそ17000人の出生児の多</p>	<p>1999年の項目例：家族構成、家族関係、エスニシティ、言語、住所、引越しの予定、家の相続、ホームレス歴、居住歴、婚姻区分、関係歴、妊娠歴、ひとり親、不妊、養子、相手の以前の関係からの子ども、16歳以上の子どもの有無、家族の活動、親の責任、家族との接触、サポート、収入、</p>	<p>1970年0歳 17198 母親、助産婦に質問、カルテチェック 1975年5歳 13135 先生、親調査、健康診断実施 1980年10歳 14940 同上 1986年16歳 11628 親、担任、教頭、教科毎の記録、成</p>	<p>1999/2000年の調査は、National Child Development Study と統合して実施し、29歳の人に向けた多様な質問を設けた。 1999年では、目標</p>

発 達	イ ギ リ ス	<p>(名称：1970: British Births Study, 1975, 1980: Child Health and Education Study, 1986: Youthscan, 1996; 1999: 1970 British Cohort Study)</p> <p>イギリス全国/1970 年生まれ の出生児/0,5,10,16,26,29 歳 で調査</p>	<p>方面からの調査。 現在は、Bedford Group for Life Course and Statistical Studies ☞Institute of Education の www.ioe.ac.uk Centre for Longitudinal Studies で管理。</p>	<p>収入源、家計状況、仕事、経済活動、現職、他の収入を伴う仕事、職歴、パートナ-の仕事、生涯学習、資格用学習、その評価、他の資格取得、IT の利用、識字、算数能力、健康、長期的疾病等、呼吸器官の問題、精神的健康、視力、聴力、事故、ケガ、入院歴、喫煙、飲酒、ダイエ-ット、運動、身長、体重、国籍、価値観、組織参加、投票行動と意図、労働組合参加、宗教、新聞購読、車所有、政治活動。生活の各領域への意見、パートナ-との関係の質、仕事に関連した素質、心理的問題、退学停学の経験、警察との関わり、犯罪、不法薬物の使用など</p>	<p>績 1996 年 26 歳 9003 本人郵 送調査 1999 年 29 歳 11261 本人面接(CAPI)</p> <p>15822 人、回収 11261 人。 サンプルや回収率につ いての詳細な記録は http://www.data-archive.ac.uk/doc/4396/mrdoc/pdf/NCDSandBCS70populationsandsamplesovertime.pdf</p>
意 識	イ ギ リ ス	<p>British Social Attitudes Survey Panel Study, 1983-1986 [ICPSR 3090] http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/03090.xml</p> <p>British Social Attitudes Survey Panel Study, 1991-2004 http://www.iser.essex.ac.uk/uls/c/bhps/</p> <p>イギリス全国/世帯 16 歳以上 /毎年</p>	<p>様々な意識をモニターする。ア メリカの GSS (総合社会調 査) に類似 (Social and Community Planning Research) ESRC UK Longitudinal Studies Centre</p>	<p>BHPS 全国を代表する 5000 以上の世帯の 16 歳以上を毎 年追跡調査。10000 人以上。 離家した場合、新しい世帯で 全員が調査される。子どもも 16 歳になると調査対象。 11-15 歳用の調査が 4 波以降 実施されている。</p>	
若 者 ・ キ ャ リ ア	イ ギ リ ス	<p>Career Aspirations Among Smith Undergraduates: A Longitudinal Study (ds533) 1975-1978 年</p> <p>「スミス大学学部生のキャリ ア目標：追跡調査」</p>	<p>女性のキャリアの望みと最 終的なキャリア選択に影響す る精神的内面の変数を調査す る。</p>	<p>最初のデータ収集は、1975 年に行われ 110 人のスミス カレッジの学部生が被験者。 心理学基礎のクラスを受講 している人のうち、自主的に 質問票調査に参加。 2 回目の調査は 1978 年に 行われ、22 人 (ほとんどか 4 年生) の追跡調査。123 人</p>	<p>第 1 回：110 人 第 2 回：初回からの 22 人に 123 人が追加</p>

			values, いくつかの TATS.					
1	高校生・キャリア	Career Motivation and Achievement Planning (ds1135) 1980-1993 年 「キャリアに対する意欲と達成計画」 中西部の6つの高校/9年生・12年生/11年後/13年後/3回	キャリアに対する意欲のパターンを調べる。特に、ある人々は科学技術分野のキャリアを始めた、意欲的にフォロワーシップすることができているのに、一方でそれはそれができない人がいるのはなぜかを探る。	多様な高校生グループのキャリア意欲についてのより一般的な大規模な長期的研究のサブサンプルの質的データ。パーソナリティと環境の両方に関連する意欲に関する諸問題の質問票。1991年の春と1993年の夏にインタビュー。インタビューの項目は、家族、両親、教育、カウンセリング、仕事、自己、決定、意欲、ロールモデル、移行期、世界観、経験、障害、重要な出来事。	の学生が追加。 78,81,82年卒業予定の学生から123人追加した。 第1波は1980年中西部の6つの高校の9年生と12年生。2つの学校は都会、2つは田舎、2つは郊外。 第2段階459人の参加者。質的調査の最終サンプルの54%が女性、21%がマイノリティ、14%が移民。	2082回収、有効票1863。1990年に第2回459有効回答。		
1	6	大学・キャリア	1961年卒業基準を満たした学生に、将来のキャリアの予定。キャリアの希望と実際にやりたい領域、一年と四年の時の違いも調べる	金銭的目標、仲間からの影響、大学での活動。3年間追跡、それぞれの時にやっていること、キャリアの満足度、目標。5波は1968年に、卒業後7年の時に調査された。	2段階確率抽出。教育関連機関リストにある1039校から135校を選び、卒業予定者から、さらに学生を抽出。	最後の5波は、それまでのすべてに回答した。三割のサブサンプル。その81%の4868人。		
1	7	子どもたちの成長と発達	学業不振や発達の遅れの可能性のある子どもに対する早期の教育的介入の効果を見る。2つの研究が合併されている。保育所等でのケア、家庭訪問、家庭学校などへの介入が、貧困、母親のIQの低さ、親の教育の低さなどにより、発達の遅れの危険がある子どもの認知的、学業の面を改善できるかどうかという可能性を調べる。低収入家族で、介入ありと無しグループに分けて実験式で行った。	CAPは、1972-77年に生まれた子供。学校に入るにあたり、半分は家庭学校教員プログラムによる教育を小学校3年間受けた。(CAREは、78-80年生まれの子どもを、保育所と家庭訪問、家庭訪問のみ、どちらもないの3グループ。(CARE)の方は、保育所と訪問あるいは訪問のみのグループは、家庭学校教員サービスを受けた。 6週目から就学前まで教育的保育、6週目から就学前まで家庭訪問、小学校3年まで家庭学校の3グループ。 母親関連の変数(婚姻状況、父母の年齢、教育、社会経済状況)、家族環境、認知能	10代の母親を持つ、高卒未満の親をもつ、非常に収入が低い、小さな町に住む、南東部に居住しているなど、学校落ちこぼれになる危険因子を持つ子供 Abecedarian 研究では、122人中109人が、無作為に入ること教育プログラムに入ることと同義。合計で111人の子どもについて調査。 もう一方のサンプルは、66人の子ども(双子2組含む)。合計177人、173家族に生ま	3年目回答率85%、7年目92%、10年目94%。		

	カ ロライナ／出生6週目／3 年目／7年目／10年目	出生から思春期まで追跡。保 育所から幼稚園に入るまでの 介入の効果を見る。小学校低学 年時における介入の効果を見 ることできる。	(University of North Carolina, Chapel Hill) のグループ)	力 (幼児発達の Bayley 尺度、スタンフォード ドビネット、心理的発達インデックスな ど)、学力を調査。 Peabody 学カテストなど。それぞれのテス トの適切な時期に実施。 Woodcock-Johnson テストが、秋と春に実 施された。7年生まで追跡。	れた。途中で一人死亡。
1 8	疾病 ・ 疫 学 Charleston Heart Study, 1960-2000 [ICPSR 4050] http://webapp.icpsr.umich.edu/ socoon/ICPSR-CDROM/04050 .xml 「チャールズトン郡における 心臓疾患に関する調査」	41年間の追跡調査。 黒人と白人で心臓疾患をわず らう率や危険因子、加齢の影響 が異なるかを調べる。	心理的社会的、行動面、加齢、機能を含む 様々な測定が繰り返された。途中で黒人コ ホートを追加。合計3回の追跡。死亡情報 や属性(年齢、人種、性別、職業、教育、 婚姻地位)を含む。	サウスカロライナ州チャ ールズトン郡の住民1960年に 35歳以上の住民を無作為抽 出(地域クラストラスター確率抽 出) 面接調査、電話調査、自記式 調査、医療検診、死亡データ。	ベースライン84%
1 9	子ども ・ 催眠 術 Child Rearing Antecedents of Hypnotic Susceptibility (ds570) 1951-1988年 「子ども時代の育てられ方に よる催眠のかかりやすさの調 査」 5-6歳の子どもの母親／子ども 高校3年／2回	感受性についての追跡調査票 と、先行研究によって確立さ れたさまざまな子育てに関す る測定との関係を調べる。 Sears, Maccooby, & Levin の 「Patterns of Child Rearing, 子 育てのパターン」1951-1958 (A235)の追跡調査。	催眠にかかりやすさを計る質問と、個人経 験についての質問票(149のトランス状態 の経験の頻度や強度についての質問票)	最初のインタビューは、 1951-52年に、5-6歳のこど もを持つ379人の母親に対 して行われた。こどもが高校 生3年生のときに98人に追 跡調査が行なわれた。 フォローアップ調査: Crowne, Conn, Marlowe, & Edwards, 1965 (A572); Edwards, 1968 (A575); McClelland, 1978 (A046); and McClelland & Franz, 1987-88 (A1012).	379人の母親に対して 行われた。こどもが高 校生3年生のときに追 跡(98人)。
2 0	子どもの発 Childhood and Beyond (ds1930) 1987-1994年 「子ども時代とその後」	こどもの自己認識、課題価値 (task values)、活動の選択 に関する発達と社会化の研 究。	1年目(1987):親と教師が児童につい ての基本的情報を提供。児童は、学校で認 知能力についてのテストを受診。幼稚園、 1年生、3年生のこどものグループで研究 が開始。	中西部の都市/郊外の主に白 人、中の下から中の階層の4 学区で1986年に開始。大規 模の追跡調査。 初回は、南東ミシガンの4	875人の児童とその両 親と教師の79%が参加 に同意。5年目(1994) 82%が参加。

<p>2-4 年目(1988-1990): 児童、教師、親、学校の記録からデータ収集。児童が高校卒業後2年までデータ収集が継続。子どもが自分の成績をどう認識しているか、また、親と教師がこれらの信念にどういう役割を果たしていたか。こどもの教育への親のかかわり。</p>	<p>1998-2000年の中国の22の地方の65歳以上の高齢者の健康状態とクオリティ・オブ・ライフについての情報収集。健康な長命者および85歳以上の死亡の決定要素を明確にする。この目的のために、それ以前の研究よりも、90歳代、百歳以上の人が集められた。</p>	<p>2-4 年目(1988-1990): 児童、教師、親、学校の記録からデータ収集。児童が高校卒業後2年までデータ収集が継続。子どもが自分の成績をどう認識しているか、また、親と教師がこれらの信念にどういう役割を果たしていたか。こどもの教育への親のかかわり。</p>	<p>1998-2000年の中国の22の地方および都市でのほとんどの老人人口。中国の22の地方の郡および都市から選んだほぼ半数の地域で、研究に参加することに合意した百歳以上の人すべて。百歳以上の1人につき、近所に住む80-89歳の1人、90-99歳の1人、およびあらかじめ指定した年齢と性別の65-79歳の1人がインタビューを受けた。個人インタビューおよび自己記入式調査票。</p>	<p>1998年の波: 85歳以上98% 2000年の波: 残った参加者と補充された参加者のうち98.9%、死亡した回答者を親類が代理したもののが97.9%。フォローアップできなかった割合は9.6%。</p>
<p>中国22地方/65歳以上/2年間</p>	<p>1998-2000年の中国の22の地方の65歳以上の高齢者の健康状態とクオリティ・オブ・ライフについての情報収集。健康な長命者および85歳以上の死亡の決定要素を明確にする。この目的のために、それ以前の研究よりも、90歳代、百歳以上の人が集められた。</p>	<p>1998-2000年の中国の22の地方の65歳以上の高齢者の健康状態とクオリティ・オブ・ライフについての情報提供。回答者の健康状態、日常生活の機能、健康状態とクオリティ・オブ・ライフに対する自己評価、生活の満足、加齢に対する精神的態度と感ぜ方について。また、食事および栄養、医療サービスの利用、飲酒と喫煙の習慣（それぞれについて、やめていれば、いっしょにやめたかも）についてたずねられた。さらに、身体的活動、読書習慣、テレビ視聴、宗教活動などについての質問、動作、記憶、視覚についてのテスト。彼らの健康の現状確認のために、回答者は、高血圧症、糖尿病、心臓疾患、脳卒中、癌、肺気腫、喘息、結核、白内障、緑内障、胃・十二指腸潰瘍、関節炎、パーキンソン病、床ずれあるいは他の慢性病などがあるか。入浴、着替え、トイレ、食事に関して援助を必要とするかどうか、また病気のときは誰が支援を提供したか。</p>	<p>1998-2000年の中国の22の地方の65歳以上の高齢者の健康状態とクオリティ・オブ・ライフについての情報提供。回答者の健康状態、日常生活の機能、健康状態とクオリティ・オブ・ライフに対する自己評価、生活の満足、加齢に対する精神的態度と感ぜ方について。また、食事および栄養、医療サービスの利用、飲酒と喫煙の習慣（それぞれについて、やめていれば、いっしょにやめたかも）についてたずねられた。さらに、身体的活動、読書習慣、テレビ視聴、宗教活動などについての質問、動作、記憶、視覚についてのテスト。彼らの健康の現状確認のために、回答者は、高血圧症、糖尿病、心臓疾患、脳卒中、癌、肺気腫、喘息、結核、白内障、緑内障、胃・十二指腸潰瘍、関節炎、パーキンソン病、床ずれあるいは他の慢性病などがあるか。入浴、着替え、トイレ、食事に関して援助を必要とするかどうか、また病気のときは誰が支援を提供したか。</p>	<p>1998年の波: 85歳以上98% 2000年の波: 残った参加者と補充された参加者のうち98.9%、死亡した回答者を親類が代理したもののが97.9%。フォローアップできなかった割合は9.6%。</p>
<p>中国22地方/65歳以上/2年間</p>	<p>1998-2000年の中国の22の地方の65歳以上の高齢者の健康状態とクオリティ・オブ・ライフについての情報提供。回答者の健康状態、日常生活の機能、健康状態とクオリティ・オブ・ライフに対する自己評価、生活の満足、加齢に対する精神的態度と感ぜ方について。また、食事および栄養、医療サービスの利用、飲酒と喫煙の習慣（それぞれについて、やめていれば、いっしょにやめたかも）についてたずねられた。さらに、身体的活動、読書習慣、テレビ視聴、宗教活動などについての質問、動作、記憶、視覚についてのテスト。彼らの健康の現状確認のために、回答者は、高血圧症、糖尿病、心臓疾患、脳卒中、癌、肺気腫、喘息、結核、白内障、緑内障、胃・十二指腸潰瘍、関節炎、パーキンソン病、床ずれあるいは他の慢性病などがあるか。入浴、着替え、トイレ、食事に関して援助を必要とするかどうか、また病気のときは誰が支援を提供したか。</p>	<p>1998-2000年の中国の22の地方の65歳以上の高齢者の健康状態とクオリティ・オブ・ライフについての情報提供。回答者の健康状態、日常生活の機能、健康状態とクオリティ・オブ・ライフに対する自己評価、生活の満足、加齢に対する精神的態度と感ぜ方について。また、食事および栄養、医療サービスの利用、飲酒と喫煙の習慣（それぞれについて、やめていれば、いっしょにやめたかも）についてたずねられた。さらに、身体的活動、読書習慣、テレビ視聴、宗教活動などについての質問、動作、記憶、視覚についてのテスト。彼らの健康の現状確認のために、回答者は、高血圧症、糖尿病、心臓疾患、脳卒中、癌、肺気腫、喘息、結核、白内障、緑内障、胃・十二指腸潰瘍、関節炎、パーキンソン病、床ずれあるいは他の慢性病などがあるか。入浴、着替え、トイレ、食事に関して援助を必要とするかどうか、また病気のときは誰が支援を提供したか。</p>	<p>1998-2000年の中国の22の地方の65歳以上の高齢者の健康状態とクオリティ・オブ・ライフについての情報提供。回答者の健康状態、日常生活の機能、健康状態とクオリティ・オブ・ライフに対する自己評価、生活の満足、加齢に対する精神的態度と感ぜ方について。また、食事および栄養、医療サービスの利用、飲酒と喫煙の習慣（それぞれについて、やめていれば、いっしょにやめたかも）についてたずねられた。さらに、身体的活動、読書習慣、テレビ視聴、宗教活動などについての質問、動作、記憶、視覚についてのテスト。彼らの健康の現状確認のために、回答者は、高血圧症、糖尿病、心臓疾患、脳卒中、癌、肺気腫、喘息、結核、白内障、緑内障、胃・十二指腸潰瘍、関節炎、パーキンソン病、床ずれあるいは他の慢性病などがあるか。入浴、着替え、トイレ、食事に関して援助を必要とするかどうか、また病気のときは誰が支援を提供したか。</p>	<p>1998年の波: 85歳以上98% 2000年の波: 残った参加者と補充された参加者のうち98.9%、死亡した回答者を親類が代理したもののが97.9%。フォローアップできなかった割合は9.6%。</p>
<p>2</p>	<p>男子学生が占めている環境に女子学生が入ってくる</p>	<p>第1波で使用された調査票は、5つのThematic Apperception Tests TAT (口頭)、</p>	<p>ニューイングランドのエリート私立中学で1975-77年</p>	<p>初回女子学生48名 男子学生196名</p>

2	生・共学と別学 Adolescents (ds527) 1975-77年 「思春期早期の認知と感情の発達」 ニューイングランドのエリート私立中学／2年間・2回	よって起こる達成意欲、実績、性役割認識、倫理と概念の発達、最終的なキャリア選択に対する影響を調べる。	Alpert-Haber テスト不安、Ben 性役割尺度、アナグラム、コーンバーグのモラル判断ジレンマおよび簡単な属性記入用紙。 面接では、学校に対する態度、親との関係、将来への期待、自分について、友達とのつきあいパターン、他の人からの影響、個人の目標および女性運動に対する態度について。 第II波では、ローゼンバーグの自尊心質問票、Feffer の“people I know”作業、文章完成問題、Kohlberg のモラルジレンマ、オプジェクト使用テスト、5つのTAT(視覚)。第2回目のインタビューは、昨年の経験と、自分の目標に接近しているように感じられた度合いについて。 1977年にテストされた新しいサンプルは、属性の質問票と性役割指向性、モラル発達、自尊心、創造性およびテスト不安の質問票。	に男子校が男女共学になる直前に収集。 1975年12月に最初の共学の年に入学した女子学生48名と男子学生196名。次の年の冬184名が再テスト。この男子55名、女子38名の補足サンプルが加えられた。 最初のテスト期間の直後に、最初の女子48名およびそれにあわせた男子サンプルがインタビュー。	マレー・センターは490人の子ども(245人の養子、245人の比較対照グループ)
2	養子の発達 Colorado Adoption Study (ds913) 1976-1996年	養子について、遺伝と環境が行動的発達に果たす影響に関する追跡調査。1976年開始。	頭脳と動作の発達、コミュニケーション、性格および気質の標準化されたテスト。 家庭観察、物理的環境の情報、人口統計情報、子どもの誕生および家庭環境スケール。 1、2、3および4歳時に自宅で記入。5歳および6歳では、気質、健康、子どもの発達、家庭環境スケールを郵送および電話によって親に調査。	データ・セット全体は、20年以上にわたる主に白人の親、きょうだい、子ども本人のデータ (センターはプロジェクトの最初の7年の子どもと親のデータのみ所持。) 。兄弟データや後半の波からのデータは調査者が詳しい分析のために保持。	
3	「コロラドの養子に関する研究」 1、2、3、4、5、6、7歳／計7回	養子受け入れ家庭、生物学的両親、養子、そして比較対照の親子からデータを収集し、完全な養子研究の設計。			
2	家計 Consumer Durables and Installment Debt: A Study of American Households, 1967-1970 [ICPSR 7497] http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-UNCAT/07497.xml	消費生活での、耐久消費財の消費とクレジットカードの使用を調べる。	世帯収入、耐久消費財の購入、借金の実態。住宅、貯金、株など財産所有。		1434家族が4回の調査に参加。
4					

	全米/世帯/4年間・4回	収入と支出の詳細のデータを得る。労働局、消費価格指数をチェックするためのデータを提供するため。 United States Department of Labor. Bureau of Labor Statistics	世帯とほぼ重なる消費単位を、3ヶ月ごとに15ヶ月間調査。	全国確率抽出。世帯。各回サンプルの1/5を落とし、次でそれを補う方式。 つまり、各サンプルは、5回連続で調査に参加し、その後除外される。	1波 5171人; 2波 5120人, 3波 5085人; 4波 5224人; 5波 5236人。
2	Consumer Expenditure Survey, 1982-1983: Interview Survey [ICPSR 8598] http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/08598.xml				
5	(同様の調査が、1984, 1985, 1986, 1987, 1988, 1988, 1989, 1990, 1991, 1992にもある。)				
2	全米/世帯/15ヶ月/3ヶ月ごと				
死別女性・健康	Coping and Health Among Older Urban Widows (ds1017) 「都市部の高齢未亡人たちのコーピングと健康」	メキシコ系アメリカ人と白人の未亡人が、死別のストレスを最も効果的に対処していくための手段を特定する。メキシコ系アメリカ人の未亡人とき白人の未亡人と比較したときの固有のニーズ、および、心理学的研究をメキシコ系アメリカ人未亡人の研究に適用する方法をさぐる。 Southwest Institute for Research on Women	研究では、健康の3つの側面を測定：身体的症状の頻度、心理的状態の頻度、機能的障害（日常生活の中の特定の活動の不能）。問題対処のさまざまな方法が成功しているかどうかを認知されている身体的・心理的健康より測定。 英語またはスペイン語によるインタビュー。背景的健康、現在の生活、死別した夫との過去の関係についての、構造化したオープンエンドとクローズドエンドの質問。未亡人の対処法が時の経過による変化を確認することを目指した。最初のインタビューは死別6か月以内。2つの続きのインタビューは6か月ごと。	64人のアングロ人、53人のメキシコ系アメリカ人および6人のアメリカインディアンを含むゾン・エリア在住の123人の低収入の未亡人。40歳以上で、1か月当たり1000ドル未満の収入。夫をなくしてからインタビューまで、6ヶ月以内。	123人? (白人64、メキシコ系53、アメリカインディアンの6含む) 3回全て完了したのは109人。
6	死別6ヶ月以内、その後6ヶ月/1年後				
7	Cornell Retirement and Well Being Study (ds1776) 1994-1997年 「コーネルの退職と健康の(Well Being) 研究」	有償の仕事および無償のコミュニティへの奉仕への参加・非参加の経路を探る。老年期のWell-beingへのさまざまな軌跡への示唆を得る。 男女の年配就労者と引退した者を調査し、退職後の生活へ	1994年から1999年。約2年ごとに3波。第1と第2波は、構造化したインタビュー、自記式質問票および広範囲な生活史調査から成る本人のインタビュー。 第3波は電話インタビュー。可能であれば、配偶者にも質問票を依頼。退職と退職後の仕事の全般的な健康への示唆を調査。	ニューヨーク州北部の6つの大きな団体の年配労働者または退職者。	1994-1995年調査： 50-72歳の年配労働者304人と退職者458人。 1996-1997：第1波の94%(n=712)が第2波インタビューを終えた。

	ニューヨーク州北部／高齢の労働者／5年間／2回	の移行と退職後の生活について5年間調べる。			最終波の参加者は664人。3波すべてに参加したのは654人。男女ほぼ同数(326と328)。
2 8 女性 と キ ャ リ ア ・ 看 護 婦	Cultural Continuity Study (ds1923) 1966-1972年 「文化的継続性の研究」 看護婦・看護教員／6年間・2回	教育を受けたアメリカ女性を、大学最終学年から、卒業後5年までを追跡調査し、看護と教師という2つの伝統的分野での、教育を受けた女性の文化的価値と役割のジレンマを探る。	1966年に、20の看護学部の473人の看護婦および6つの教員養成学部からの250人の教師が、バックグラウンド、教育に対する姿勢、キャリアのプラン、役割の優先順位、パーソナリティに関する質問票を記入。 「教育とキャリアに非常に高い価値を置く」から、母親であることおよび家族に非常に高い価値を置く」までからなる尺度に自分と自分にとって重要な他8人の人の価値観を示す、価値一覧表を作成。自我の強度、well-beingの認識、柔軟性を測定する尺度。 フォローアップ質問票は1972年に最初の参加者に郵送され、352人が返送。最初の質問票からのアイテムに加え、実際および学生の時に予想したキャリアと結婚の関係、キャリア対結婚の矛盾に対する認識および解決法、矛盾解決と意思決定の心理的また構造的メカニズムなど。	20の看護学校の473人の看護婦および6つの教員養成大 学からの250人の教師。両方のサンプルは社会経済的背景において類似。	473人の看護婦および250人の教師
2 9 結 婚 関 係	Denver Family Development Study (ds1021) 「デンバー家族発達研究」 デンバー／カップル／10年間・毎年	結婚生活上の悩みの増加について探り、結婚生活の不和の予防的アプローチの効果を検討する。	2回の予備アセスメント実験に参加し、その中でいくつかの、自己評価質問票に回答し、録画された二人の会話セッションに参加。関係の満足度と期待。録画されたセッションでは、彼らの関係の中で最も重要な問題か、仮定的な結婚生活上の争いについて話合う。会話セッションの半分ではカップルは「communication box」「会話ボックス」を用いて自分たちのやりとりを調節し、評価。この機能によって、参加者は、順番に話し、聞き手になる方が、コミュニ	結婚しようとしている156組のカップル。(データは63組分所有。)	カップル156組

		<p>ケーションを評価するようになってい。予備評価の後、86組のカップルは、コミュニケーションおよび問題解決技術に焦点をあてた5週間の関係増強プログラムに参加。</p> <p>33組のカップルがプログラムに全て出席し、9組が部分的に参加し、43組は参加を拒んだ。参加した33組が実験グループ、参加を拒んだ43組と、予防介入の機会を与えられなかった70組がコントロールグループ。</p> <p>10年間毎年フォローアップ。フォローアップセッションは、予備評価および事後評価と類似の自記式質問票と会話セッション。</p>	<p>2002年春調査の結果。3年生調査は、子ども達の多様性、通う学校、通った学校、幼稚園以来の学業、性別、人種、家族背景、保育、保育状況、食状況、保育所で過ごす時間、社会経済状況、世帯収入、親と子どもとの教育レベル、親の職業、教員評価の実施、各種活動の有効性。</p> <p>*3年生調査は、ベース年に回答し、1年生調査に答えた人とその家族、教員、学校。サンプル補充。</p> <p>1年生データ：子どもデータと親調査が完了した対象は回答したとみなす。</p> <p>1年生春調査：全員が対象、1年生秋調査は、30%のみ。春調査は1998-99年に幼稚園に通っていない人を含め、補充。しかしベース調査には含まれていない。春と秋調査では、その学校の幼稚園から入ってきた人のみが含まれている。</p> <p>親調査：CATI、子ども調査：CAPIと自記式。</p> <p>教員と学校事務：自記式</p>	<p>アメリカの子どもとその家族、先生、学校。1998-99年に幼稚園に通う子どもを多段階率抽出。1000あまりの幼稚園から、22000人の子ども。公共、民間の幼稚園、フル、パートを含む。子どもは、人種、階層など、多様。アジア系の子ども、私立幼稚園をオーバーサンプル。</p> <p>100の第一抽出単位（郡か郡のまとまり）、が選ばれ、その中の学校が選ばれる。公立と私立それぞれ枠を設ける。1998年秋にはサンプルされた学校の中から、23の幼稚園が、えらばれた*。</p>	<p>3年生調査: 15,305人 ECLS 調査は、出生児コホートと、幼稚園コホートがある。出生児の方は、出生から1年生まで。幼稚園調査は、幼稚園から5年生まで追跡。</p>
子ども	<p>Early Childhood Longitudinal Study [United States]: Kindergarten Class of 1998-1999, Third Grade [ICPSR 4075] (ECLS-K) http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/04075.xml</p> <p>子ども継続調査：幼稚園卒業年1998-99年、3年生</p> <p>全国／幼稚園／3年生／5年生</p>	<p>幼稚園から5年生まで、子どもの早期の学校での経験に焦点を当てる。</p> <p>家族、学校、地域、個人的な状況が、子どもの発達、早期教育、早期学業成績に与える影響を捉える。</p> <p>子どもの親以外のケアへの移行、早期教育、学校、子ども達の経験。家族、学校、地域、その他の個人的属性によって、子どもの発達や学業成績に与える影響を調べる。</p> <p>(United States Department of Education, National Center for Education Statistics, United States Department of Education, National Center for Education Statistics)</p>			
3					
0					

<p>子ども の 発達 ・ 教育</p>	<p>Early Childhood Longitudinal Study, birth cohort 2001-2002 [ICPSR 04261] http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/04261.xml http://nces.ed.gov/ecls/Birth.aspx</p> <p>「早期子ども期における追跡調査、出生児調査」</p> <p>全米／9ヶ月／2年／4年／1年生</p>	<p>早期子ども期における発達、健康、早期保育・教育についての全国的な情報が欠けている。調査は、子どもの早期の経験と後の学業成績等の関連性についての意識を高めることを目的とする。</p> <p>4歳の調査では1998-99のECLS-Kの幼稚園一年生調査と同じものを使用。</p> <p>(United States Department of Education, National Center for Education Statistics, United States Department of Education, National Center for Education Statistics)</p>	<p>ECLS-B 全ての波：9ヶ月、2年、4年、幼稚園と1年生</p> <p>親：自身、家族、子どもについて、父親は、子どもの生活の中での役割。子どもは2歳、4歳の時には観察、評価用の活動に参加。保育と早期教育施設：教育に携わる人に、経験やトレーニングの状況、学習環境を回答。</p> <p>幼稚園、1年生：先生や学校が、子どもの早期教育環境や学校、教室についての状況を回答。子ども、親、保育従事者、教員、学校管理者が、家、保育所、学校などの子どもの認知的、社会的、心理的、身体的発達についての情報を回答。</p> <p>ECLS-B・9ヶ月：自宅でも観察、主たる保育者が回答。子どもの身長、体重、腕周りの測定を含む。父親は、自記式の調査票を記入。自宅観察は、親子のビデオ録画を含む。National Center for Health Statistics から、妊娠中ケアや分娩に関する情報を引き出す。</p> <p>ECLS-B・2歳、4歳：自宅で子どもを評価し、主たる保育者が回答。父親は、自記式の調査票を記入。自宅観察は、親子のビデオ録画を含む。保育者も調査があり、一部の保育所では、観察が行われた。</p> <p>ECLS-B・幼稚園・1年生：子どもの評価と親、先生、学校管理者の調査。</p>	<p>2001年に生まれた子どもの代表的サンプル10600人。アジアパシフィック系、ネイティブアメリカン、中国系、双子、低体重児(2500未満)、超低体重児(1500未満)をオーバーサンプル。</p> <p>* 出生コホートのサンプル：2001年に生まれた13500人のサンプル。アジアパシフィック系、ネイティブアメリカン、中国系、双子、低体重児(2500未満)、超低体重児(1500未満)をオーバーサンプル。</p> <p>出生証明を利用。全国保健統計センターに依頼し、サンプルした。</p>	<p>3000組の家族(子ども、母親および何人かの父親)</p> <p>*項目： プログラムによつての違い、サービスの質をよくする道、乳幼児がいる低収入ファミリー</p>
<p>低収入 ・ 乳幼児 の</p>	<p>Early Head Start Research and Evaluation (ds97) 1994年</p> <p>「早期ヘッドスタート：研究と評価」</p> <p>ヘッドスタートプログラム17カ所の家族／6.15.24ヶ月</p>	<p>乳幼児のいる家庭へのサービスを特別に推奨するヘッドスタートプログラムが1994年に再度導入されたことを受けて、このプログラムの及ぼす影響の測定をする。</p> <p>プログラムに参加している1500家庭と、比較対照の、プ</p>	<p>参加者は3000組の低収入で負しい家族(子ども、母親および何人かの父親)。アフリカ系アメリカ人34%、Latino(a)24%、白人37%、その他の民族5%。子どもたちは登録時に生後0-12か月。母親は平均23歳だったが、三分の一以上の母親は18歳</p>	<p>3000組の家族(子ども、母親および何人かの父親)</p> <p>*項目： プログラムによつての違い、サービスの質をよくする道、乳幼児がいる低収入ファミリー</p>	

<p>る家庭</p>	<p>ログラムに参加していない 1500 家庭を用いた、プログラム評価研究。 Administration for Children and Families</p>	<p>する。 2)「早期ヘッドスタートプログラム」の子ども、親、家族への効果を深く分析する。「インパクト評価」。プログラムスタッフやコミュニティへの成果も評価。 3)「早期ヘッドスタートプログラム」で、皆により望まれる効果をあげるための方法を探る、研究者による地域調査 4) 福祉改革、父親、保育および障害を持つ子どもなど、政策とすべき問題に関する情報の必要に対応する「政策研究」 5)連続的なプログラム改良のためのフォーマット：研究プログラムのサイトへのきめこまかな訪問、プログラムに関する書類、親へのサービスのフォローアップインタビュー、親へのサービスのフォローアップインタビュー、保育観察、スタツプ調査、親の報告書、子供の直接的な観察、訓練された観察者による観察、ビデオ録画された親子のインタラクティブセッション(問題解決と自由遊びの状況で)のコード化、などの複合的データ収集方法が行なわれた。*</p>	<p>以下。子どもが 14、24 および 36 か月の時、子どものアセスメントおよび親とインタビュールが行なわれた。比較グループの家族への情報が「早期ヘッドスタート」に加わっている家族のものと比較できることが確かめられ、てからのち、親と子どもは、プログラムに入ってから 6、15 および 24 か月にもアセスメントされた。子どもと家族のために働く「早期ヘッドスタートプログラム」のディレクターおよび重要なスタッフもインタビューを受けた。</p>	<p>のサービス・ニーズおよびサービスの利用、プログラムがコミュニティの変化に寄与するもの、子どもと家族にもたらされた結果、ある特性を持った家族に変化をもたらし効果、プログラムの導入された方によるインパクトの差異、専門の訓練、持続性、スタッフの健康、家族とサービスプロバイダーの間の関係性の構築、協力したサービスのネットワーク作り、定収入家庭にも利用可能な保育のアレンジメント(研究期間中を通じて)、子どもの環境と保護者の間の関係、子どもの社会感情的機能、子どもの認知と言語の発育、育児と家庭環境、親の特性、父親と他の大人の関係。</p>
<p>結婚関係 3 3</p>	<p>Early Years of Marriage Study (ds1018) 1986-1989 年 「結婚初期の調査」 ミシガン州ウエイン郡/35 歳以下カップル/4 年間・4 回</p>	<p>1986 年に開始、4 年間の追跡調査。新婚時代における結婚生活の安定性に関連する要因を調べる。</p>	<p>対象はミシガン州ウエイン郡在住で結婚時に 35 歳以下。主サンプルは 373 カップル(アフリカ系アメリカ人 199 カップル、白人アメリカ人 174 カップル)。比較対照グループは、59 カップル(白人アメリカ人 38 カップル、アフリカ系アメリカ人 21 カップル)。</p>	<p>1987 年データは 347 カップル。1988 年 264 カップル。1989 年 252 カップル。</p>

若者 ・進学 ・就業	Education Longitudinal Study of 2002 [ICPSR 未登録] http://nces.ed.gov/surveys/els2002/index.asp 2002年教育に関する縦断調査 全米／10年生／2年後／4年後／継続中	2002年に10年生である人を、その後、高校卒、その後の教育や仕事の世界に進む移行をモニターする。 調査の目的と用途：家庭環境の重要性、親の子どもに対する達成期待、様々なカリキュラムや特別プログラムの影響、高校のの違いによる影響、高校教育の効率は学校の大きさ、組織、雰囲気、エトス、カリキュラム、学業的なこと、他の特徴によってどう異なるかを把握する。教授法やカリキュラム内容やその範囲が、教育的な成長と達成をどう影響するかを分析。	2002年：調査のサンプルの学生を、高校卒業後受けた教育や労働市場での経験について調査。教育を続ける人については、高校での経験（キャリア）がその後の教育機関へのアクセス、学校やプログラムの選び方、ドロップアウトするかどうか、達成、後の就職や大人の役割への移行。就職する人については、高校がどの程度労働市場の準備を可能としているかなど。 ・読解と数学のテスト、生徒と親1人、生徒の英語と数学の先生が調査。各学校の校長あるいは管理部長が学校についての調査票を記入。調査員が、学校の設備や環境についての質問票を記入。 2004年1回目追跡：退学していた生徒もあり。生徒調査票、退学生徒調査票、テスト、学校管理者調査票が実施。2004年の高校成績、履修、成績、活動記録を9年生から12年生について。 2006年2回目追跡：高校卒業後のフォローアップは、CATIによって実施する予定。その後も回数等は未定だが、追跡調査を行う予定。	2002 春学期の10年生。 無作為で学校が選ばれ、各校から無作為で生徒を抽出。750校（学校、教員、広報、調査員チェックも750）の15000人の生徒とその親。およそ10000の教員。 私立学校の割合が少ないので、比較可能とするため、オナーサンプル。 アフリカ系アメリカン、アジア人、ヒスパニックと白人を比較可能とするため、アジア系もオナーサンプル。	2002年時点で10年生だったサンプルに、さらに2004年の12年生で2002年春にはアメリカの10年生ではなかった者からも、サンプルし、この調査が2004年時点でのアメリカの12年生を代表するようにする。
女性と職場の異動	Effect of Job Transfer on American Women (ds600) 1977-1979年 「転職がアメリカ人女性に与える影響」 全米／従業員／2年間・2回	なぜ、就労者とその家族のうち、移動したいと思う者とうででない者がいるのか。移動を容易にするのは困難にする条件は何なのかなど、移動可能ライフスタイルの影響を検討する。	第1波：就労者の配偶者(妻)および子ども（記入は親による）のための別調査票あり。両波の質問票：属性、移動と仕事に対する態度と満足度について、身体的症状のチェックリスト、ストレスおよび自尊心ケール。配偶者の質問票(就労者と類似)は、家族に関しての補足的事項、夫の仕事の家族への影響、社会的ネットワーク。子どもへの質問票：身体的、行動的、学業的、社会的、感情的分野の項目を評価。 第2波：転職に関係する追加項目あり	従業員再配置会議メンバーの10社から3～5年間に転職した従業員の名前が提供された。これらの会社はアメリカの会社をおおまかに代表している。およそ3,000人の名簿から、10の会社の従業員が任意に選ばれ、研究への参加を依頼。 1977年秋に、500組の家族に質問票を郵送、348家族(70%)が回答。 1979年秋に再度コンタクト。	500組の家族に質問票郵送、348家族(70%)が回答。第2波は、第1波に回答した家族の80%が回答。

3	結婚関係	Effect of Parenthood on Marriage (ds220)	第1子の誕生が若いカップルの結婚生活に及ぼす影響を検討。第1子の親と、子どもが生まれるようとしていくカップルとを比較。結婚生活の満足度が親になることの結果変化するという、役割理論仮説を検証。	子どもが生まれる前後の親としての期待、出産と育児に関連しての、夫婦間の関係の変化について。夫と妻は類似の質問票に、妊娠5か月、誕生5週間後、誕生5ヶ月後の3つの時点で回答。	ミシガン州フリンントの労働者階級カレッジ、ニューヨーク州イサカの学生および中高生階級カレッジ、ニューヨーク市の上流階級および労働者階級カレッジ。	1波：妻 624 人夫 577 人。 2波：妻 499 人夫 486 人。 3波：夫 465 人妻 457 人。
6	子ども	「子育てが結婚生活に与える影響」 ミシガン、ニューヨーク／妊娠5か月、誕生5週間後、誕生5ヶ月後／3回	低収入の母親と彼女たちの仕事についての研究。就労が家庭と個人生活に及ぼす影響。どのように、現在の家庭構成が就労の障壁になっているかなど。	子どもが生まれる前後の親としての期待、出産と育児に関連しての、夫婦間の関係の変化について。夫と妻は類似の質問票に、妊娠5か月、誕生5週間後、誕生5ヶ月後の3つの時点で回答。	ミシガン州フリンントの労働者階級カレッジ、ニューヨーク州イサカの学生および中高生階級カレッジ、ニューヨーク市の上流階級および労働者階級カレッジ。	1波：妻 624 人夫 577 人。 2波：妻 499 人夫 486 人。 3波：夫 465 人妻 457 人。
3	低収入	Effect of the Welfare Woman's Working on Her Family (ds865)	第1波：基礎的な家族および属性情報、職業、育児と保育所に対する態度、満足感、および願望。宗教、仕事探し活動、健康、支援システムおよび生活保護の履歴。簡易な第3波質問票が1971年と1972年に回答者のサブサンプルに郵送された。内容は、夫の背景、家事を行なう者としての自己評価、夫の仕事、役割矛盾など。	子どもが生まれる前後の親としての期待、出産と育児に関連しての、夫婦間の関係の変化について。夫と妻は類似の質問票に、妊娠5か月、誕生5週間後、誕生5ヶ月後の3つの時点で回答。	ミシガン州フリンントの労働者階級カレッジ、ニューヨーク州イサカの学生および中高生階級カレッジ、ニューヨーク市の上流階級および労働者階級カレッジ。	1波：妻 624 人夫 577 人。 2波：妻 499 人夫 486 人。 3波：夫 465 人妻 457 人。
7	福祉	1969-1972年 「生活保護を受けている女性の就労が家庭に及ぼす影響」 ニューヨーク州中小都市／10代の子どものいる女性／2年後・3回	第1波：基礎的な家族および属性情報、職業、育児と保育所に対する態度、満足感、および願望。宗教、仕事探し活動、健康、支援システムおよび生活保護の履歴。簡易な第3波質問票が1971年と1972年に回答者のサブサンプルに郵送された。内容は、夫の背景、家事を行なう者としての自己評価、夫の仕事、役割矛盾など。	子どもが生まれる前後の親としての期待、出産と育児に関連しての、夫婦間の関係の変化について。夫と妻は類似の質問票に、妊娠5か月、誕生5週間後、誕生5ヶ月後の3つの時点で回答。	ミシガン州フリンントの労働者階級カレッジ、ニューヨーク州イサカの学生および中高生階級カレッジ、ニューヨーク市の上流階級および労働者階級カレッジ。	1波：妻 624 人夫 577 人。 2波：妻 499 人夫 486 人。 3波：夫 465 人妻 457 人。
8	高齢化生活	English Longitudinal Study of Ageing (ELSA) 2002年- http://www.esds.ac.uk/longitudinal/access/elisa/ 「イギリスの高齢化に関する追跡調査」	高齢化に伴う経済的、社会的、心理的、身体的な事項を理解するためのイギリス最初の調査。50歳以上の人を二年おきに追跡する。長期化する退職後の生活と高齢化する人口において、イギリスの医療保険、年金制度が人々のニーズに応える事ができるようにするための政策策定のため。アメリカの Health and Retirement Study をモデルとした。	子どもが生まれる前後の親としての期待、出産と育児に関連しての、夫婦間の関係の変化について。夫と妻は類似の質問票に、妊娠5か月、誕生5週間後、誕生5ヶ月後の3つの時点で回答。	ミシガン州フリンントの労働者階級カレッジ、ニューヨーク州イサカの学生および中高生階級カレッジ、ニューヨーク市の上流階級および労働者階級カレッジ。	1波：妻 624 人夫 577 人。 2波：妻 499 人夫 486 人。 3波：夫 465 人妻 457 人。

		<p>Institute for Fiscal Studies (IFS). 5年間は政府のいくつかの省庁から資金の半分の援助あり。残りの半分はアメリカのNational Institute on Agingから得ている。</p>	<p>2波、1年間隔、中間に電話調査。NIMHのDIS診断面接質問票III、を使いDSMIIIに従って診断を分類した。その状況、鬱、鬱の繰り返し、アルコールや薬物濫用や依存症、摂食障害、非社会的な人格、恐怖症、パニック障害など。認知障害なども。</p>	<p>地域精神健康センターの指定地域 (New Haven, Connecticut, Baltimore, Maryland, St. Louis, Missouri, Durham, North Carolina, and Los Angeles, California)に住む18歳以上。各地域から3000人の住民と施設から500人を選んだ。回答者数20,861人。</p>	<p>最終的には3,842人</p>
<p>3 9</p> <p>精神疾患・疫学</p>	<p>Epidemiologic Catchment Area Study, 1980-1985: [United States] [ICPSR 6153] http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/06153.xml</p> <p>「疫学的指定地域における研究」</p> <p>いくつかの地域/18歳以上/5年間・2回</p>	<p>現在と過去の精神疾患の率とサービスの利用とニーズについてのデータを収集すること。</p> <p>(United States Department of Health and Human Services, National Institute of Mental Health)</p>	<p>共通項目の例： 世帯についての情報、住居、家計についての様々な事項、食事、所有物、社会福祉や生活保護についての質問、税金の詳細。 個人：仕事、教育、資格、職種、職場での言語、仕事の満足感、労働時間など、ケアを必要とする人、ケアの仕事への影響、近所、友人、家族との接触、収入についての詳細、健康状態、子ども、余暇、満足感など。</p>	<p>これに先駆け、ヨーロッパのいくつかの国ではすでにパネル調査が実施されていた。 例：German Socio-Economic Panel; the Netherlands, the Socio-Economic Panel; Panel Study on Belgian Households; Panel Study of Economic Life in Luxembourg; British Household Panel Survey</p>	<p>学校、仕事、結婚および親になるという大きな生活の変化を代表して選ばれた。3年にわたって2波で行なわれた。</p>
<p>4 0</p> <p>生活ヨーロッパ</p>	<p>European Household Panel Survey http://www.iser.essex.ac.uk/epag/dataset.php#echp</p> <p>「ヨーロッパ世帯パネル調査」</p>	<p>European Community Household Panel によって、1994年に開始された。12カ国で並行してパネル調査が行われ、毎年追跡をしている。3カ国が後に追加。直接の比較を可能とするデータが存在する。 ベルギー、デンマーク、ドイツ、ギリシャ、スペイン、フランス、アイルランド、イタリア、ルクセンブルグ、オランダ、オーストリア、ポルトガル、フィンランド、イギリス。</p>	<p>4つのTAT、基礎的な事項の質問票、インタビュー、およびFeller Role-taking Task, Kelly Role Repertory grid, Who Am I?その他のいくつかのバージョンナリテイ・インベントリーに回答。</p>	<p>外部環境の変化についての個人の主観的経験と関連する、「経験によって導かれる愛情の発達」の仮説の検証。重要な愛情の変化をもたらした</p>	<p>「子どもと成人における、経験</p>
<p>4 1</p> <p>人の転換</p>	<p>Experience-Induced Affective Development in Children and Adults (ds529)</p>	<p>外部環境の変化についての個人の主観的経験と関連する、「経験によって導かれる愛情の発達」の仮説の検証。重要な愛情の変化をもたらした</p>	<p>外部環境の変化についての個人の主観的経験と関連する、「経験によって導かれる愛情の発達」の仮説の検証。重要な愛情の変化をもたらした</p>	<p>外部環境の変化についての個人の主観的経験と関連する、「経験によって導かれる愛情の発達」の仮説の検証。重要な愛情の変化をもたらした</p>	<p>外部環境の変化についての個人の主観的経験と関連する、「経験によって導かれる愛情の発達」の仮説の検証。重要な愛情の変化をもたらした</p>

期	期 によって導かれる愛情の発達 幼児・5・10年生、大学生、婚 約中、新婚、新しい親／3年 間・2回	た、転換期の経験を、こども と成人両方について調査。	生活の変化を経験しようとしている人、 ごく最近生活の変化を経験した人、最近生 活の変化を経験し、ある程度それに適応し た人への調査。	64人の幼児(幼稚園、1年 生、2年生)、342人の児童(5 年から10年生)、138人の大 学生、36人の婚約中の人、 60人の新婚の人、40人のも うすぐ子どもが生まれる人、 41人の新しい親。	フォローアップされた (Chester, A640)。
若 者 ・ キ ャ リ ア	Experiences and Plans of Young Adults, 1973-1978 [United States] [ICPSR 8074] http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/08074.xml	1973年にアメリカ大学入試 プログラム American College Testing Program.により調査さ えた高校3年生(4年制)の追 跡調査。ある職業やキャリアア プランに関連の活動につい てどのくらい情報を持ってい るか。	2つの追跡調査：現在の生活状況、仕事、 教育、軍隊経験、高校以来の活動、人口学 的属性、将来の計画。	アメリカ在住の若者。 1976年に第1回の追跡調査。 2回目は、1987-79年に。 Institute for Demographic and Economic Studiesによ って 自記式調査、郵送回収	第1波は、9296人の高 校3年生。2波 5293 人、3波3615人。
4 2	「若者の経験とプランに関す る調査」 全米／高校3年生／3年後	1970年は、個人の階層移動の 決定要因とその結果を調べる。 (University of North Carolina's Institute for Research in Social Science)	個人的な情報と活動、高校・大学について (動機、退学理由、大学にいった友人の 数)、就労経験(職歴、労働時間、職種、 仕事意識)、家族や結婚について(人種、 宗教、家族の教育、収入や財産)、様々な 意識(故郷、現在の居住地、高校、大学に ついて)、女性には避妊、妊娠、子ども数、 女性の役割や仕事について。	1955年に高校2年生を無作 為抽出し、1970年に追跡調 査 1955年には42校の4151人 の高校2年生に対し、教育テ スト協会により、適性やキャ リア目標についての調査を した。	1970年の回答者 2077 人 年齢は全国サンプルと 一致。白人以外の多い 機関に通っている人が 除外、私立学校が除外、 学力の低い人、退学し た人が少ない、大都市 の人が少ない。
若 者 ・ キ ャ リ ア ・ 意 識	「機会の平等についての調査」 全米／高校2年／15年後	4年間の追跡調査。 なぜ学部女子学生のうちにで、 科学を専攻しようと思うて入 学してきたのにそれを決定前 にあきらめてしまっている のか。 女子学生が科学を専攻する という選択を導くと思われる	入学に先立った夏と、在学中1年に1度、 これらの学生は個人的背景、大学での経 験、専攻の選択、キャリアプランについて の質問票に記入した。1983年卒業予定学 年の参加者は新1年生時4つのTATテス ト(picture cues)に回答。さらに、女性 20人男性20人のサブサンプルは、専攻の深 選択、キャリアプラン、学術的な経験を深	1978と1979年夏、それぞれ 入生の女性150人男性150 人が選択。 1982年卒業の学年からは数 学SATスコアが700点以上 のものが選ばれた。1983年	女性150人 男性150人
大 学 生 女 性 ・ 専 攻	Factors Influencing Concentration Choice Among Undergraduates (ds530) 1978-1983年 「学部生の専門分野選択に影 響を及ぼす要因」				
4 4					

	大学生／入学前／在学中／4年間・2回	要因についても検討。	く調査するためにインタビューされた。	卒業の学年からは、大学志願書で、科学または数学を専攻する意志を示していた場合	
4	Family Life Project: A Longitudinal Study of Adoption (ds1610) 1969-1989年 「家族生活プロジェクト:養子の追跡研究」	20年の追跡研究。1969-1970年に開始され、養子の子どもへの影響と、異人種の親、1人親・2人親の養親への養子の場合と、生物学的家族の場合の家族の発達について検討。 (Chicago Child Care Society)	子ども・親・家族のインタビュー、子どもによる心理テスト記入、人種とジェンダー・アイデンティティについての質問票、知能、社会的成熟度など。 1969-1972に開始。 II 1973-1976; III 1977-1981; IV 1982-1987; V 1987-1989。	2つのシカゴの団体によって、1人親、異人種の親、および従来の養子縁組から選ばれた。5つのグループを含む: 1人親での養子縁組; 白人の親が他の人種の子どもを養子縁組; アフリカ系アメリカ人の子どもを養子にするアフリカ系アメリカ人の親; 1人の親と実子; 両親と実子がそろったアフリカ系アメリカ人の家族。 養子を受け入れた家庭の75パーセントは中の上から中流階級。25%は労働者階級。	研究サンプル: アフリカ系アメリカ人の子どもも158名(0-2歳、男女および同数)
5	シカゴ/20年間・5回				
4	Family Lifestyles Project (ds642) 1973-1986年 「家族のライフスタイルプロジェクト」	オルタナティブな家庭環境での、異なった態度、価値観、子育て方法が、子どもの健康と身体的発達、認知機能、小学校での成績、そして社会的・感情的発達への影響を検討。 14年の追跡調査。	価値観、家族の構成および安定性、妊娠に対する態度、子供に対する望み、社会的サポート、育児実践、従来のファミリーバリューとカウンターカルチャーへのコミットメント、養育行動、家の物理的な様相、子供の健康、子どもの学校の成績、子どもの認知スコア、家族SESなど。 子どもは、出生前から12歳になるまでに15の時点で調査。参加者(通常母親)は、1973-1980年の間毎年および1985-1986年にフォローアップ。	4つの異なったかたちの家族(シングルマザーの家族、コミュニティ/グループ、未婚/社会的契約家族および両親がそろった核家族)。各グループ約50家族、計209人の子供(47%女 53%男)、208人の親(1人以外は母親)。第1波で141人の父親もインタビュー。	参加者は白人、主には中流階級(60%)および労働者階級(30%)および貧困階級(10%)
6	4形態の家族/18-35歳/14年間・15回				
4	Family Relationships Study (ds606) 1979-1989年	個人の成熟と関係性の成熟の関連を調べるために、若年成人とその親との関係の質を調	見解の違いがどう扱われるか、どのよう	縦断と横断の混合で1979年開始。1980年1981年に3つの集団で継続。22歳・1957	合計432人の参加者のうち1度インタビューを受けたもの127人、2

7	<p>「家族関係研究」 20代/10年間・3回</p>	<p>査。</p>	<p>細なインタビュー。育児実践および親の意識についての質問、個々の心理的発達学の測定、個々の適応および心理的機能の測定。さらに、31カッパルのサブサンプルで、親密さの認識がどう変わっていかかを調査。</p>	<p>年生まれ、24歳・1955年生まれ、26歳。1953年生まれ。72人の新しい参加者からなる4番めのグループ(29歳・1951年生)を第2年に追加。このグループを1981年にも調査。</p>	<p>度インタビューを受け たもの137人、また3 回インタビューを受け たもの168人。 4つの集団の参加者 のうちの80人が10年 後29-25歳でフォロー アップ。</p>
4 8	<p>Family Socialization Project (ds23) 1968-1978年 「家族の社会化についてのプロジェクト」 4歳の子どもとその親/12年間・3回</p>	<p>子どもたちと思春期の青少年たちの能力と発育の個人の相違に関する家族の決定要因について探る。 家族の社会化の実践、親の態度、就学前、子ども初期、思春期初期の子ども的人生における3つの重要なステージにおける発達の要因を検討。</p>	<p>親記入の質問票、親と子どもの個人インタビュー、家庭での家族相互作用の録画観察。家族観察は、プロジェクトで設計された「家族ストレス指標」「Q-sort items」「Likert-type rating items」他の行動と個人の性格についてのスケールによってコード化。親の調査は育児パターン、育児のさまざまな側面、そして親の個人属性スケールを含む。その他、子どもに標準化された知能テスト、自立度、性役割態度とパーソナリティ、社会的態度、自己像、認知的機能、モラル判断と倫理的態度、身体的健康とフイットネス、栄養状態など調査。</p>	<p>白人中流家庭の親および子ども。12年におわたって3波で集められた。 1968年：134人の4歳の子どもおよびその親がインタビュー。 1972年：最初の104人の子どもとその親。60人の9歳の子ども別の別の集団およびその親が追加。 1978年：最初の89人の子どもおよび第2の集団の50人の子ども。 すべての波で、各子どもの少なくとも1人の親はインタビュー。3波以降20代半ばになつていた参加者へは電話インタビュー。</p>	<p>1968年、134人 1972年、104+60人 1978年、89人+50人。</p>
4 9	<p>Family Transformations (ds715) 「家族の変動」 ボストン近隣の5郡/6ヶ月以内に離婚し6-12歳の子どもがいる家族/1年後・2回</p>	<p>離婚のプロセスにある家族の間の相違、その意味と、個々の家族にとつての経験を検討する。</p>	<p>参加することに合意した親に、家族構成および経歴、親の情緒的、身体的、社会的適合、子育てスタイル、子どもの適応についてどう思うかについての質問票が送付された。その後、親と子どもは別々にインタビューを受けた。 親は、別居以後の家庭生活のさまざまな側面、結婚の経緯と別居、日々のルーチン、パーソナリティ、関係、子ども(被験者)の経験についてたずねられた。子ども(被験者)および他の子どもの両方は、彼らの毎</p>	<p>ボストン近隣の5郡において、公的離婚訴訟を求めている人々の中から求められた。 物理的な別居が過去6ヶ月に起こった家族、少なくとも6歳から12歳の子どもが1人いること。 1年後の1982年フォローアップ。</p>	<p>160組の家族が、最初に参加、2波142組。127人の母親(2波110人)、57人の父親(2波42人)、136人の子ども(2波102人)。</p>

	<p>ほとんどもがヨーロッパ系アメリカ人で、社会階層では下から中流階級。平均は中の1は、貧困労働者層または失業中。専門職の家族もあり。</p>	<p>パネル調査回答者 1262人。第2波では 889人 (72%)。</p> <p>*サンプルは 4 種類：パネル、子供、新人、高齢者。</p> <p>(1) パネル・サンプル適格者は 1976 年にマレーシアの第 1 回家庭生活調査の回答者だった 1,262人の女性。当時全員既婚で 50 歳以下。第 2 波では、これらの回答者のうち 889人が女性の生活史アンケートに回答した。(適格者のうち 72%) これらの回答者の夫も、同世帯で生活している場合は、インタビュアーを受けた。</p> <p>(2) 子供サンプルは、調査適格者の女性の 18 歳以上の子供。マレーシア半島内に居住している</p>		
<p>日のルーチン、家族メンバー、親の別居についての気持ちについてたずねられた。その後、いくつかの標準化された質問票も行なわれた。</p> <p>親はパケットを渡され、こどもの教師(彼らは Achenbach こども振る舞いチェックリストの教師形式を送られた)と連絡をとる許可を求められた。教師は Achenbach Child Behavior Checklist を送付された。母親とこどものサブサンプルは遊び相互作用セッションの録画のために再度訪れた。</p>	<p>サンプルは、マレーシア半島の 52 地域で、50 歳以下の結婚歴のある女性がいる 1,262 の世帯。そのうち 49 地域はエリア確率法によって選択。残りの 3 地域は、漁業地域で生活しているインド系の家族のサンプルを増やすため意図的に抽出。</p> <p>第二回調査: (1) マレーシア半島に住んでいる 50 歳以下のすべての既婚の女性、(2) マレーシア半島に住んでいない 18 歳以上のすべての子供、(3) マレーシア半島に住んでいない 18-49 歳すべての女性とある女性。(4) マレーシア半島に住んでいる 50 歳以上のすべての人。</p>	<p>追跡用調査票 (MFLS-2): インタビューの試みられた全世帯に対して使用され、調査・アンケート用紙の配布状況、対象者数、回答者確認などの情報を記録。</p> <p>MF20(家庭メンバー用) : 全パネル・サンプル世帯に使用。家庭メンバーの状況について、所在地、婚姻区分、教育、生年月日など。</p> <p>MF21(家庭登録簿) : インタビューを受けた全世帯について、現在とごく最近の家庭メンバーについての属性情報。</p> <p>MF22(女性の生活史): パネル女性とその選択された娘および義理の娘、また新サンプル女性の調査。妊娠歴および関連する出来事、結婚、仕事、移住歴、家族背景、教育。</p> <p>MF23 (男性の生活史): パネル女性の夫、選択された息子および義理の息子、新しいサンプル女性の夫、からデータ収集された。結婚、仕事、移住歴、教育、家族背景。</p> <p>MF24(高齢者の生活史): 50 歳以上の選ばれた人に対しておこなわれ、結婚、こども(どこに住んでいても)、読み書きの能力、仕事の経験、移住歴、健康および家族背景に関する質問。</p> <p>MF25 (家計): この波でインタビュアーを受</p>		
<p>急速な人口学的、社会経済的変化の期間における、多様な家庭行動の研究。</p>	<p>第一回調査 (MFLS-1) は、MFLS-2 に選ばれた 398 の列挙プロジェクト、および MFLS-1 の中で使用される 52 の主要なサンプルの記録を含む。(家族計画サービス、一般的な医療サービス、学校、水および衛生、住宅コスト、農業、輸送、人口、都会/田舎の区分、政府プログラムについての現在の状況)。</p> <p>第二回調査 (MFLS-2) は、MFLS-1 と同じユニットのデータで、同様の情報に加えて、家族計画サービス、医療サービス、学校および水処理、についての過去のデータを含む。</p> <p>また、夫には、生殖に関連する</p>	<p>急速な人口学的、社会経済的変化の期間における、多様な家庭行動の研究。</p> <p>第一回調査 (MFLS-1) は、MFLS-2 に選ばれた 398 の列挙プロジェクト、および MFLS-1 の中で使用される 52 の主要なサンプルの記録を含む。(家族計画サービス、一般的な医療サービス、学校、水および衛生、住宅コスト、農業、輸送、人口、都会/田舎の区分、政府プログラムについての現在の状況)。</p> <p>第二回調査 (MFLS-2) は、MFLS-1 と同じユニットのデータで、同様の情報に加えて、家族計画サービス、医療サービス、学校および水処理、についての過去のデータを含む。</p> <p>また、夫には、生殖に関連する</p>	<p>急速な人口学的、社会経済的変化の期間における、多様な家庭行動の研究。</p> <p>第一回調査 (MFLS-1) は、MFLS-2 に選ばれた 398 の列挙プロジェクト、および MFLS-1 の中で使用される 52 の主要なサンプルの記録を含む。(家族計画サービス、一般的な医療サービス、学校、水および衛生、住宅コスト、農業、輸送、人口、都会/田舎の区分、政府プログラムについての現在の状況)。</p> <p>第二回調査 (MFLS-2) は、MFLS-1 と同じユニットのデータで、同様の情報に加えて、家族計画サービス、医療サービス、学校および水処理、についての過去のデータを含む。</p> <p>また、夫には、生殖に関連する</p>	<p>第一回調査 (MFLS-1) は、MFLS-2 に選ばれた 398 の列挙プロジェクト、および MFLS-1 の中で使用される 52 の主要なサンプルの記録を含む。(家族計画サービス、一般的な医療サービス、学校、水および衛生、住宅コスト、農業、輸送、人口、都会/田舎の区分、政府プログラムについての現在の状況)。</p> <p>第二回調査 (MFLS-2) は、MFLS-1 と同じユニットのデータで、同様の情報に加えて、家族計画サービス、医療サービス、学校および水処理、についての過去のデータを含む。</p> <p>また、夫には、生殖に関連する</p>
<p>家族生活</p>	<p>First Malaysian Family Life Survey, 1976-1977 [ICPSR 6170]</p>	<p>急速な人口学的、社会経済的変化の期間における、多様な家庭行動の研究。</p> <p>第一回調査 (MFLS-1) は、MFLS-2 に選ばれた 398 の列挙プロジェクト、および MFLS-1 の中で使用される 52 の主要なサンプルの記録を含む。(家族計画サービス、一般的な医療サービス、学校、水および衛生、住宅コスト、農業、輸送、人口、都会/田舎の区分、政府プログラムについての現在の状況)。</p> <p>第二回調査 (MFLS-2) は、MFLS-1 と同じユニットのデータで、同様の情報に加えて、家族計画サービス、医療サービス、学校および水処理、についての過去のデータを含む。</p> <p>また、夫には、生殖に関連する</p>	<p>急速な人口学的、社会経済的変化の期間における、多様な家庭行動の研究。</p> <p>第一回調査 (MFLS-1) は、MFLS-2 に選ばれた 398 の列挙プロジェクト、および MFLS-1 の中で使用される 52 の主要なサンプルの記録を含む。(家族計画サービス、一般的な医療サービス、学校、水および衛生、住宅コスト、農業、輸送、人口、都会/田舎の区分、政府プログラムについての現在の状況)。</p> <p>第二回調査 (MFLS-2) は、MFLS-1 と同じユニットのデータで、同様の情報に加えて、家族計画サービス、医療サービス、学校および水処理、についての過去のデータを含む。</p> <p>また、夫には、生殖に関連する</p>	<p>急速な人口学的、社会経済的変化の期間における、多様な家庭行動の研究。</p> <p>第一回調査 (MFLS-1) は、MFLS-2 に選ばれた 398 の列挙プロジェクト、および MFLS-1 の中で使用される 52 の主要なサンプルの記録を含む。(家族計画サービス、一般的な医療サービス、学校、水および衛生、住宅コスト、農業、輸送、人口、都会/田舎の区分、政府プログラムについての現在の状況)。</p> <p>第二回調査 (MFLS-2) は、MFLS-1 と同じユニットのデータで、同様の情報に加えて、家族計画サービス、医療サービス、学校および水処理、についての過去のデータを含む。</p> <p>また、夫には、生殖に関連する</p>
<p>マレーシア</p>	<p>Second Malaysian Family Life Survey: 1988 [ICPSR 9805]</p> <p>「マレーシア第 1 回家庭生活調査 1976-1977 年」</p> <p>「マレーシア第 2 回家庭生活調査 1988 年」</p>	<p>急速な人口学的、社会経済的変化の期間における、多様な家庭行動の研究。</p> <p>第一回調査 (MFLS-1) は、MFLS-2 に選ばれた 398 の列挙プロジェクト、および MFLS-1 の中で使用される 52 の主要なサンプルの記録を含む。(家族計画サービス、一般的な医療サービス、学校、水および衛生、住宅コスト、農業、輸送、人口、都会/田舎の区分、政府プログラムについての現在の状況)。</p> <p>第二回調査 (MFLS-2) は、MFLS-1 と同じユニットのデータで、同様の情報に加えて、家族計画サービス、医療サービス、学校および水処理、についての過去のデータを含む。</p> <p>また、夫には、生殖に関連する</p>		
<p>5</p>	<p>0</p>	<p>マレーシア全国/50 歳以下の女性と家族/11,12 年後</p>	<p>マレーシア全国/50 歳以下の女性と家族/11,12 年後</p>	<p>マレーシア全国/50 歳以下の女性と家族/11,12 年後</p>

		<p>出来事、結婚、雇用、移住、収入、財産、家族規模と構成に関する期待、コミュニケーションの特性、時間配分、回答者その他の人々の間の物品、援助、金銭のやりとりについて。</p> <p>パネル調査の第2波は、世帯レベルの過去および現在のマレーシア半島の女性およびその夫のデータを提供し、家族の意志決定に影響を及ぼしている社会と経済要因、生殖、結婚率、移住および死亡などの従来からの人口学的研究のトピックもカバー。</p>	<p>けたすすべての世帯からの家計のデータ収集。</p> <p>MF26、MF27：このデータ収集用のコミュニケーションレベルデータサブファイル作成のために用いられた。-97部(MF26DIST地区レベルデータ)は、マレーシア半島の78の地区の各々1つの記録を含んでいる。このファイルは、医療サービス(例：病院、ヘルスセンターおよび医者の数)、家族計画サービス(例：家族計画クリニックの数、避妊の実施)、誕生、死、出生率、小・中等学校の数、人種の割合、産業と職業の割合についての情報を提供する。(大部分は1988年のものだが、1970年にさかのぼるものもある。)**</p>		<p>ることのうちから、任意に選択された1人とのインタビュ。</p> <p>(3) 新サンプルは、18-49歳の女性(婚姻区分にかかわらず)あるいは18歳未満の既婚の女性。</p> <p>(4) 高齢者のサンプルは50歳以上の1,357人</p>
<p>5 1</p> <p>大学生・摂食障害</p>	<p>Follow-up and Replication of Prevalence of Bulimia Among College Students (ds1023)</p> <p>「大学生の過食症有病率の追跡調査と追試」 大学生/10年間</p>	<p>Colby, Ware, Zuckerman による1982年にハーバード大学のランダムサンプリングによる「大学生の過食症有病率」研究のフォローアップ。目的は1982年から92年までの、ダイエット行動と摂食障害の有病率の変化や若年成人への転換期の変化をみることに。</p>	<p>1982年の質問票と類似の質問票。属性と健康バックグラウンド、食習慣、食事、運動、摂食障害。摂食障害をはかる26の質問。</p> <p>フォローアップ質問票は、家族とキャリアについての質問とともに、ローゼンバーグ自尊心スケールを含む。</p>		<p>1991-92に、質問紙が1200人の学生のもとへ無作為抽出で送付。799通(女性564、男性235)回答。</p> <p>最初のサンプルの901人のうちの732人のフォローアップ。</p>
<p>5 2</p> <p>結婚関係</p>	<p>Follow-up of the Kelly Longitudinal Study (ds522)</p> <p>1930年代-1981年</p> <p>「ケリーの長期研究の追跡調査」 カップル/45年間・初期は毎年?</p>	<p>パーソナリティの特徴と結婚生活における相性を45年間の追跡すること。</p>	<p>300組のカップルが、結婚の相性や結婚のその他の側面に関する縦断調査の一部として、生理学的、心理学的調査に参加。結婚した(249組)カップルは毎年記念日に郵便で連絡を受ける。第2次世界大戦により中断される1941年まで継続。1954年に、再接触。394人の参加者に1979-1981フォローアップ。</p> <p>パーソナリティ、知能および自己見解の長期一貫性を研究。離婚したカップルの両方のメンバーにもフォローアップし、最近の配偶者に関する質問をする。</p>		<p>当初300組のカップル。(600人)</p> <p>394名にフォローアップ。</p>

<p>大 学 生 ・ 女 性 の キ ャ リ ア</p>	<p>Follow-up on the Internship Component of the Women and Career Options Program (ds1040) 1975-1984年 「女性とキャリア選択肢プロ グラム」のインタビューシ ャップ部門追跡調査 ポストトンの大学在籍の女性/ 10年間・2回</p>	<p>主に男性によって占められて いる職業に、女性が参入する のを励まし、促進するために、 カーネギーコーポレーション によって助成された Trachtenbergの学生インタ ビューシ ョンプログラムデー タ(1975)(A73)のフォローア ップ。 主に、大学生のときにインタ ビューシ ョンに申し込んだ女性 の、職業生活と個人生活のパ ランスについて検討する。</p>	<p>自記式質問票を記入。質問票は、Tangri の「大卒女性のキャリア発展の長期的研 究」1967-1981(A9)の、"Womens Life Paths Questionnaire"を改訂したもの。 大学生時代以降の活動と経験についての オーブンエンドとクローズドエンドの質 問票。項目は、教育、雇用、仕事と家庭の バランス、インターンシッププログラムの 成果など。</p>	<p>1975年の参加者はボストン のボストン大学、ブランデー ス大学、ハンプシャー大学、 マサチューセッツ工科大学、 アマーストのマサチューセ ッツ大学およびマサチュー セッツ大学に在籍する250 人の女性。 住所がわかった160人の 参加者のうち、104が回答 (65%)。 ほとんどの参加者は1975年 ごろ大学を卒業しており、 1984年のフォローアップ時 で30歳程度であった。</p>	<p>250人。 追跡可能だった160人 の参加者のうち、104 が回答(65%)</p>
<p>5 4</p>	<p>Geographic Mobility of Labor, 1962-1963 [ICPSR 7434] http://webapp.icpsr.umich.edu/ cocoon/ICPSR-UNCAT/07434. xml 全米/18歳以上/3ヶ月後/ 1年後/3回</p>	<p>アメリカでの労働力の移動を 探る。</p>	<p>意識、動機、家族の経済状況、移動歴、属 性。</p>	<p>1962年8,9月、11-12月、1963 年11月の3波。世帯主かそ の配偶者。再開発地域に住 む、最近越していた人も入れ た。パネルは、両方含む。18 歳以上。</p>	<p>4612人がクロスセクシ ョン。引越しグルー プは3246人。</p>
<p>5 5</p>	<p>German Socio-Economic Panel (SOEP) [ICPSR 131] 1984-2004年 http://webapp.icpsr.umich.edu/ cocoon/ICPSR-STUDY/00131. xml http://www.diw.de/english/sop/ 「ドイツ社会経済パネル調査」</p>	<p>世帯構成。職種と家族歴、就業 とキャリア移動、収入、健康、 満足感。 (German Institute for Economic Research (DIW) in Berlin)</p>	<p>2000年には、子どもやティーンについて の項目を充実させた。2003年には、女性 の第一子の子ども成長についてたずね た。</p>	<p>1984年からの追跡調査。 1990年から旧東ドイツ地域、 1994/95年から移民も含む。 2000年にサンプル追加。サ ンプルFは10890人6052世 帯(2002年ではそれが8427 人4586世帯に。)サンプルG では高収入世帯を無作為で とる(1224世帯、2671人)。</p>	<p>西1984年=5921世帯、 12290人、東1990年= 2179世帯、4453人。 移民は1995年522世 帯。 2002年西3889世帯、 7175人、東3466人、 1818世帯</p>
<p>5</p>	<p>Grant Study of Adult Development (ds290) 1938-1989年</p>	<p>男性が、人生にどう順応する かについての調査。研究者が、 医学的な調査は疾病に重点を</p>	<p>大学2年から最上級学年まで継続。卒業後 は1955年まで毎年の質問票が送付。1956 年以降は2年ごとに送付。精神医学的調査</p>	<p>1938-1942年にアメリカの 主要な大学に在学した268 人の健康な男性。</p>	<p>268人。 20人が中絶(7%)、45 人(17%)が68歳になる</p>